

『平家物語』

～民衆に受け入れられたのはなぜか～

本校の育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・協働性

- 1 日時 令和2年10月7日(水) 15:00～15:50
- 2 学年・学級 2年B組(男子19名 女子17名 計36名)
- 3 場所 2年B組教室
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)の第2学年、[知識及び技能]の「我が国の言語文化に関する事項」、[思考力・判断力・表現力等]C読むこと(1)イに基づいて設定するものである。本単元では、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

〔知識及び技能〕

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。

〔思考力・判断力・表現力等〕

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

(2) 生徒観(調査結果等から見る課題)

生徒は、これまで「竹取物語」や「枕草子」と通して古文を学び、「盆土産」や「字のない葉書」と通して、登場人物の言動に注目し、人物像を読み取る学習をしてきた。

昨年度1月に実施した実力テストによると、古文において、指定された現代語「わかった」にあたる古文「心得たり」を抜き出す設問の正答率(通過率)は、63.9%と、県平均より5.1ポイント下回っている。このことから、現代語訳と古文とを照らし合わせることができていないと言える。また、6月に実施した標準学力調査によると、文学作品の内容を読み取る問題において、「登場人物の心情をとらえる」ことを意図した設問の正答率は75.0%と全国平均を3.0ポイント下回っている。生徒の誤答を分析すると、文章中にある「何でだよ。くぐれるって。」「無理。」「私が、」「くぐってみる」と続く会話の、発言者を正確に把握することができておらず、そのために、「私」が挑戦しようとする気持ちをとらえられなかったものと考えられる。つまり、文章の大まかな内容は把握しているものの、登場人物の言動を確かめることに課題があると言える。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

指導にあたっては、冒頭部分で「無常観」という考え方に触れさせる。まずは、音読を重ねていく中で、今読んでいる文章は「どういうことが書かれているのか」ということを疑問に感じさせることで興味を持たせたい。そして、登場人物と場面の整理をし、大まかな流れをおさえさせる。そこに描かれた登場人物の特徴があらわれた描写を根拠として、それがどういうことを意味しているのかを考えさせ、人物像を読み取らせる。読み取った人物像を踏まえて、登場人物を描いた意図を考えることを通して内容を解釈させる。さらに内容理解を助ける手段として、小集団での話し合いを取り入れる。まずは、難しさを感じることも含めて個人で思考をし、小集団→全体での共有を経て、再度、個人思考に戻ってまとめるという流れを作り、他者の考えを聞いた上での自分の考えの深まりを感じさせたい。

また、単元を貫く「当時の民衆に『平家物語』が受け入れられたのはなぜか」という問いを設定した。場面ごとに、与一や義経の言動に注目して、登場人物それぞれの思いを捉えることはもちろん、冒頭部分や「扇的」、「弓流し」の場面と琵琶法師の語りという複数の情報を整理してつなぎ合わせる必要がある。この問いに向かうという見通しを持たせ、複数の情報をもとにして総合的に『平家物語』の魅力を捉えさせ、内容をより深く解釈させたい。

単元の目標

- 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。【知識及び技能】
- 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、和が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

本校で育成を目指す資質・能力と評価規準との関わり

資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための手立て
知識・技能	古典の文章を繰り返し音読することでその独特のリズムに気づき、五音、七音のリズムの特徴などについて理解することを通して古典の世界に親しむこと。	現代語や語注などを手掛かりにして内容を捉え、授業始めのルーティン学習として、5分間の音読を行う。繰り返し音読する中で、五音、七音のリズムに慣れさせる。
思考力・判断力・表現力	複数の場面を相互に結びつけたリ、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結びつけたリすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うこと。	場面ごとに『平家物語』に表れているものの見方や考え方に触れ、様々な武士の生き方を読み取らせる。そして、それぞれの場面での読み取りを生かして、当時の民衆に『平家物語』が受け入れられた理由を考えられるようつなげていく。
主体性・協働性	自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることで、文章を深く理解したり作品が持つ魅力に迫ること。	自分の生活と『平家物語』を関連づけるために、身近な「いいね」を分析させる。生徒が身近に感じている曲を好きな理由と、『平家物語』を琵琶法師が民衆に広げたことにつなげることで、古文をより身近に感じさせる。

単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①現代語や語注などを手掛かりに読むことを通して、『平家物語』に表れたものの見方や考え方を知っている。	①目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり，登場人物の言動の意味などについて考えたりして，内容を解釈している。	①学習の見通しをもち，粘り強く登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈し，当時の民衆に『平家物語』が受け入れられた理由を考えている。

指導と評価の計画

次	学習内容	評価規準（評価方法）
1	<p>○単元の導入・単元を貫く問いの提示 ～琵琶法師の見事な語り～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な曲の「いいね」を分析し，人々が興味をひかれる理由を考えてまとめる。 ・琵琶法師がどんな存在で，どんな役割があったかを考える。 ・『平家物語』が民衆に受け入れられたのはなぜか考えていくという見通しを持つ。 	
2	<p>○冒頭部分 ～「無常観」を通して，「家」意識を持たせる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』の冒頭部分を読み，描かれている「無常観」に触れ，範読や音読を通して古典のリズムに慣れる。 	
3	<p>○「扇の的」 ～与一のスター性を捉える～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的」を音読する。 ・「扇の的」とその現代語訳を手掛かりにしながら，その内容を把握し，与一の心の揺れを捉える。 ・現代人である私たちが感じる与一の「いいね！（かつこよさ）」《現代との共通点》を挙げる。 ・与一がどのような存在として描かれているのかを考える。 ・与一の「いいね！」が描かれた意味を考える。 ・他者との交流を通して，「扇の的」を読んだ段階における『平家物語』が受け入れられた理由を考える。 	

4	<p>○「弓流し」 ～義経の光と影～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「弓流し」を音読する。 ・「弓流し」とその現代語訳を手掛かりにしながら、その内容を把握する。 ・義経の命よりも名誉を重んじるという武士の生き方を捉える。 ・義経がどのような存在として描かれているのかを考える。 ・義経の言動を光と影となる部分に分けて捉え、それらが描かれた意味を考える。 ・他者との交流を通して、「弓流し」を読んだ段階における『平家物語』が受け入れられた理由」を考える。 	
5 【本時】	<p>○単元のまとめ① ～『平家物語』の魅力をつ統合的に捉える～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用し、これまで学習したことを整理する。 ・『平家物語』の魅力をつ相互に関連づけて捉える。 ・粘り強く登場人物の言動の意味を考えて、魅力を考え、他者との交流を通して、自分の考えをより広げたり深めたりする。 	<p>㊦ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。</p> <p>㊧ 学習の見通しをもち、粘り強く登場人物の言動の意味を考えて内容を解釈し、当時の民衆に『平家物語』が受け入れられた理由を考えている。</p> <p>(ワークシート・振り返りシート)</p> <p>【イ・①, ウ・①】</p>
6	<p>○単元のまとめ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で交流した『平家物語』の魅力をつふまえて、改めて考え、自分の言葉で説明する。 ・当時の民衆に『平家物語』が受け入れられたのはなぜかを考える。 	

本時の学習

(1) 本時の目標

○複数の情報を整理しながら、登場人物の言動の意味などについて考えて、『平家物語』の魅力をつまとめることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○粘り強く登場人物の言動の意味を考えて『平家物語』の魅力をつ捉え、自分の考えを他者の考えと比較して共通点や相違点を明らかにすることなどを通して、自分の考えをより広げたり深めたりすることができる。

(学びに向かう力・人間性等)

(2) 観点別評価基準

B	A	C
『平家物語』のさまざまな場面における登場人物の言動の意味を考え、それらを統合して内容を解釈した上で、作品の魅力とその理由を説明している。	『平家物語』のさまざまな場面における登場人物の言動の意味を考え、それらを統合して内容を解釈した上で、作品の魅力とその理由を説明しており、授業では取り上げていない『平家物語』の場面について興味をもち、登場人物の言動の意味を考え、それらも統合して内容を解釈した上で、作品の魅力とその理由を説明している。	『平家物語』が魅力的なのは、話がおもしろかったからだという理解にとどまっている。

→具体的には、(6) ねらいに対する評価基準を示すルーブリック (パフォーマンス評価) 参照。

(3) 準備物

教科書、ワークシート、小黒板、振り返りシート

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導 入	① ルーティン学習 ・歴史的仮名遣い ・音読	◇フラッシュカードを用いて、テンポよく行う。	
	② めあての提示 本時のめあて これまで学習したことを整理して、『平家物語』の魅力を考えることができる。		
展 開	③ 『平家物語』において、人々が魅力に感じたもののランキングを考える。 (ア) 琵琶法師の語り (イ) 登場人物 (与一や義経) (ウ) 価値観 (無常観)	◇「いいね」の分析から分かったように、魅力に感じる理由は一つではなく、いくつもあったことをおさえる。	
	④ 学習課題の提示 学習課題 『平家物語』の魅力はどのように説明したら伝わるだろう？	◇思考ツール [コンセプトマップ] を活用して、これまでの授業で考えた『平家物語』の魅力を相互に関連づけて、統合的に考えられるようにする。 (今回は時間短縮のため、あらかじめ『平家物語』の魅力に迫るための「ことがら」を指定しておく。) ◆自分の言葉で考えを書くことが難しい場合、授業のまとめに書か	
	⑤ 思考ツールを使って、『平家物語』の魅力を統合的に考える。 ・「ことがら」の関係や関連についての考えを書き込む。【個人思考】 ・4人班で交流する。【集団思考】		

		れたキーワードを、それぞれの関係や関連に振り分けさせる。	
まとめ	⑥ 「『平家物語』の魅力について」考えをまとめる。 ⑥ 発表させ、全体で交流する。	◇ワークシートを使用し、根拠・理由付け・主張のつながりをもたせる。 ・発表者4人ほどに決める。	ワークシート
振り返り	⑦ 振り返りを書く。	・振り返りシートに記入させる。	振り返りシート
<p>○生徒の振り返り例</p> <p>●これまでの授業で学習した、与一や義経などの登場人物の描かれ方にあらためて注目し、『平家物語』という作品全体の魅力にどのようにつながるかを考えることができた。</p> <p>●ワークシートを使ったことで、自分の主張だけではなく、その根拠になる描写や考えられる理由について書くことができた。『平家物語』の魅力は何かということについて、人に伝わる主張が書けたと思う。</p>			

(5) 板書計画

振り返り

まとめ

めあて

物語

神無月

根拠

理由付け

主張

根拠

理由付け

集団思考

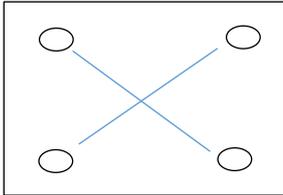
個人思考

三位
ア 琵琶法師の語り

二位
ウ 価値観

一位
イ 登場人物

★『平家物語』の魅力ランキング



学習課題 『平家物語』の魅力はどのように説明したら伝わるだろうか？

これまで学習したことを整理して、『平家物語』の魅力を考えることができる。

平家物語

まとめ

復習用

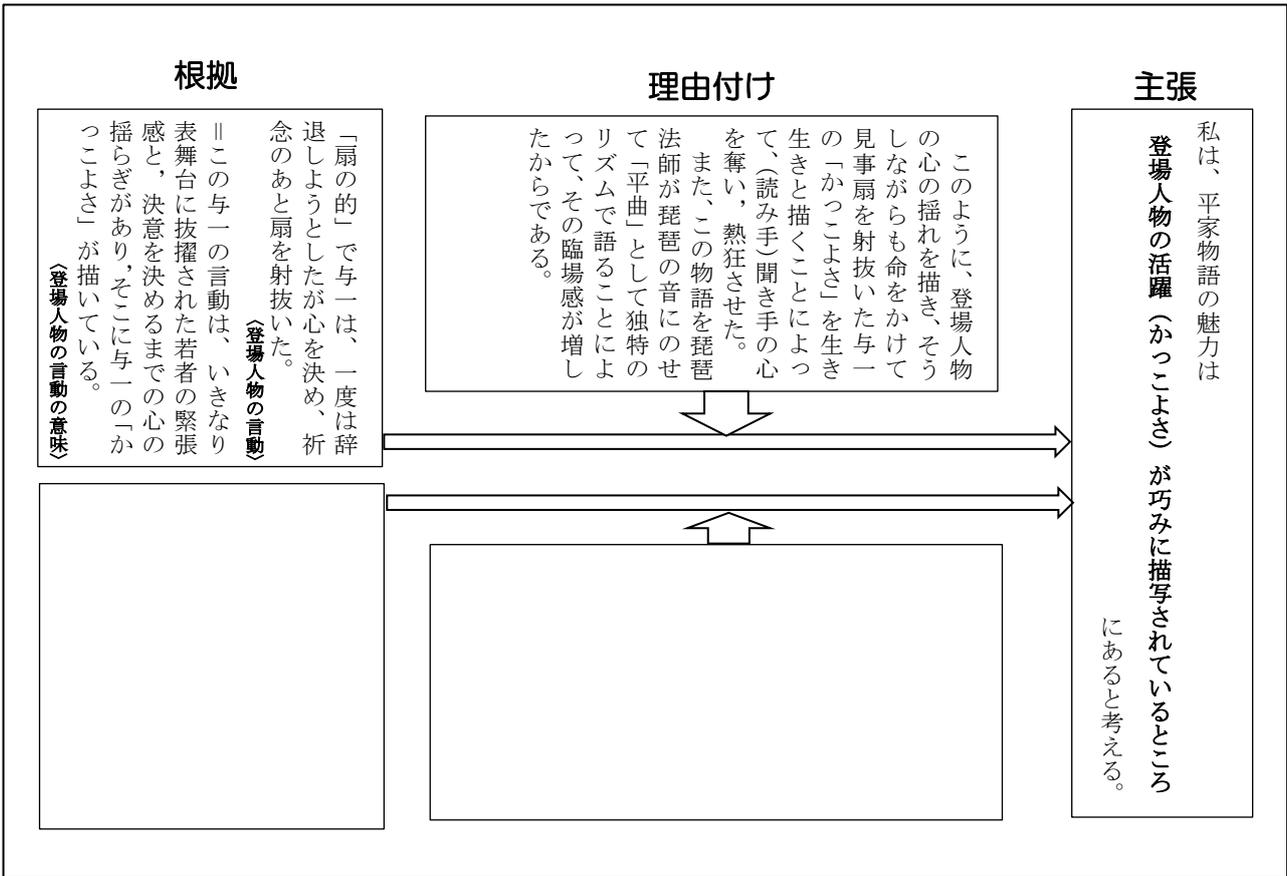
まとめ

小黒板

フラッシュカード

(6) ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

B評価



B評価

